

ごあいさつ



一般財団法人
全日本大学サッカー連盟
会長

衛藤 征士郎

「アットホームカップ2022 第19回インディペンデンスリーグ[同好会]」の開催を祝し、ご挨拶申し上げます。2000年以降、本連盟は学生たちのプレー機会を創出し、大学サッカーの活性化のために大会の整備等を行ってまいりました。本大会は同好会チームを対象にした大会で、体育会と違いエンジョイ志向であるものの毎年体育会に負けない非常にレベルの高い戦いを繰り広げています。また、本大会では審判や運営も学生が行っており、ピッチ内外で活気にあふれています。今年度もピッチ内外で学生の躍動を期待しております。現在、本連盟では競技志向の体育会だけではなくエンジョイ志向の同好会も巻き込み大学サッカー、ひいては日本サッカーをより活性化をできるような施策を検討しております。参加される学生の皆様が大大会を通じてサッカーを楽しんでいただくことが、次につながることを考えておりますので、まずは思い切りサッカーを楽しんでいただければと思います。

9月に入り入国制限が大幅に緩和されいよいよ出口が見えてきた新型コロナウイルス感染症ですが、引き続き安心、安全を第一に大会運営を行っていただきたいと思っております。

最後になりましたが、長年にわたりご支援を賜っております特別協賛社のアットホーム株式会社様をはじめ、本大会の開催にあたりご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



公益財団法人
日本サッカー協会
会長

田嶋 幸三

アットホームカップインディペンデンスリーグは大学サッカーの活性化と選手のプレー機会を創出することを目的に2014年に創設されました。今年も各地域を代表する32チームが大学同好会サッカーの頂点を目指してしのぎを削ります。学生らしい清々しい大会になることを祈っています。

今年7月、日本サッカー協会は「Japan's Way」を発表しました。これは、日本サッカーが目指すゴールに到達するための羅針盤となるものです。

日本が目指しているのは、FIFAワールドカップで優勝することだけではありません。Competitive(競技力を競う)なサッカーとWell-being(健康と幸福)のためのサッカーの両方を発展させることによって文化的価値や社会的価値を高め、日本サッカーを名実ともに世界トップレベルの存在にしていけること。それには、多様性を受け入れ、誰もが気軽に足を踏み入れることができるインクルーシブなサッカー界にしていける必要があります。サッカーが皆のものになったとき、ワールドカップトロフィーを掲げるといふ夢が大きく近づいてくるはずですよ。

選手をはじめ、運営に携わる学生の皆さんも日本サッカーの未来を担う存在です。これまでの経験を生かし、スポーツや社会の発展に貢献できる人材として活躍されることを祈っています。

最後に、特別協賛社のアットホーム株式会社をはじめ、株式会社ミカサの関係者の皆さま、全日本大学サッカー連盟、そして運営に携わる学生の皆さんに心からの敬意と感謝を表します。



アットホーム株式会社
代表取締役社長

鶴森 康史

私もアットホーム株式会社は、「Independence League【同好会】」の特別協賛社として今年で10年目となりました。本年も「アットホームカップ」の愛称のもと、本大会は勿論のこと、学内大会や理事会・運営委員会のサポートも含めて、微力ながら皆さんの活躍をお手伝いできることを大変嬉しく感じております。

本大会の大きな魅力は、チームのプライドをかけたハイレベルな戦いもさることながら、日々の鍛錬の中で築かれていく仲間との信頼、学生自らがリーグ運営を行うことで生まれていく主体性など、若い皆さんが成長していく姿に、この国の「明日」が垣間見られることです。皆さんがここで得る経験の一つひとつが、これから社会で活躍するための礎となっていきます。そして、社会人としての歩みを始めた時、それはきっと大きなアドバンテージになっていることでしょう。

当社におきましても、1967年(昭和42年)の創業以来50年以上にわたり、「調和(共生)」を企業理念の中心に据えて、働く仲間同士の信頼を最も大切にまいりました。様々な個性を持った人材が集まり、それぞれの持ち味を互いに尊重しながら助け合い、成長することで、しっかり社会に貢献しようと取り組んでおります。これからも、この国の「明日」を担う皆さんを応援・サポートしてまいります。

最後になりましたが、本大会に関係する全ての皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。